

### 1 市内におけるレガシー検討会の取組について

#### (1) 目的

かわさきパラムーブメント第 2 期推進ビジョンにおけるレガシーの形成に向けて、関係局区が連携して推進するため、レガシーごとに関係管理職をメンバーとするレガシー検討会を設置

#### (2) 内容

##### ① レガシーの共有

なぜ、パラムーブメントでレガシーを形成していく必要があるのか、また、形成された状態とはどのようなものなのか等の点についてできるだけ掘り下げ、レガシーごとにオリパラ室と関係局区の職員でイメージを共有するとともに、②の具体的な取組内容の検討に向けたベース作りと、併せて、このレガシーの形成に向けて、どのようなステークホルダーが存在しているか、という点についても確認

##### ② 具体的な取組内容の検討

①を踏まえ、レガシーが形成された状態とするために、まず現状を把握し、そのうえで何をどのようにしていけば良いのか、という観点から、関係局区の職員で既存事業のあり方と新規事業の必要性について 5 W1H を含めて検討

##### ③ 指標の設定

②の検討に基づき取り組んだ成果を定量的に測ることができ、かつ時間的・予算的にも設定可能な指標について、関係局区の職員等で検討して設定

### 2 現在の検討状況や実際の取組状況

かわさきパラムーブメント「めざすもの」や「理念」を踏まえた、①～⑦の多様性と社会的包摂に関するレガシーについての現在の検討状況や現在の取組状況等は次のとおりです。

#### レガシー①多様性を尊重する社会をつくる子どもを育むまち

- ・ 義務教育を終えた時点で、すべての子どもたちが、人は平等であり、かつ、あらゆる機会の提供は公平であるべきことを理解しており、誰もが各々の個性を互いに尊重し合っている。
- ・ 義務教育を終えた時点で、すべての子どもたちが、共生社会の担い手としてお互いに助け合い支え合うことの大切さを理解し、実践的な態度が身につけている。
- ・ 大人たちが、自他の個性を尊重し助け合うことを実践し、子どもたちの模範となっている。

学校教育においては、これまでも「キャリア在り方生き方教育」等で、共生社会に向けた教育に力を入れてきているが、さらにパラムーブメントの考え方を分かりやすく解説した教職員向けリーフレットを教育委員会独自に作成して配布。

このように、福祉などに関わる取組を積極的に教えてきているので、子ども達の気持ちを育むところまではできるが、その先となる、子ども達の実際の行動・言動につなげていくにはどうしたらよいか、という点についてレガシー検討会で検討

#### <検討会での意見>

- ・ ある学校では児童が点字によるメニュー表を自作し、地域の店に提供するなど、子ども達が自身でできることについて考え地域に発信するという活動を行っており、このような特徴的な活動を行っている学校の情報発信を積極的に実施していく

#### レガシー②心理的バリアが解消されたまち～心のバリアフリー～

- ・ すべての人が、自他の個性を尊重し、相互にコミュニケーションをとることができる。
- ・ すべての人が、自らの心のバリアを取り除く実践的な行動をとっている。
- ・ 社会的マイノリティの当事者が、自分たちも社会を構成するかけがえのない存在であることを確信し、社会生活上のバリアを取り除くうえで必要なことを他者に伝えられている。

マイノリティに対して自分には関係ないと思っている、あるいはその特性について知らないということ自体が心のバリアをつくっている原因の 1 つであると考えられ、それぞれが互いの違いについて考えるきっかけを作っていくことが大切。ただし、啓発だけでは関心のある人の気持ちを喚起するところまでが限界なので、自然にマイノリティと接する機会を増やしていくことが必要

#### <検討会での意見>

- ・ &HAND などの具体的なツールを使って実践的な行動につなげる
- ・ (本人の意向を前提に)障害のある市職員が窓口職場で勤務することで、市民・職員ともに気づきにつなげる

#### レガシー③社会的バリアが解消されたまち～ユニバーサルなまち～

- ・ すべての人が、自らの意思で行きたい所に行け、行った先で自由に行動ができる。
- ・ すべての人が、言語、心身の個性の違いを意識することなく、サービスを享受できている。
- ・ すべての人が、あらゆる情報に公平にアクセスできる。

ある障害者にとってのバリアフリー施設・設備は、ある障害者にとってはバリアになりうる(点字ブロックなど)場合があるように、ハードのバリアフリーですべてが解決できるわけではなく、互助を補完するものとしてハードのバリアフリーを位置付けるとともに、レガシーの形成には、法令等に基づくバリアフリー化がされていけばよいというわけではなく、その施設・設備等をいかに適切に使用してもらえるようにするかについて検討

#### <検討会での意見>

- ・ エレベーターの優先乗車やエスカレーターの片側寄り問題などバリアフリー設備が適切に使用されない事例について、デザイン力などで自然に解決
- ・ 短期的にはハードだけで解決することは考えられないので、日本よりもまちなかに段差が多いヨーロッパのように手助けが自然にできるような社会にしていく必要(レガシー②の範疇になる)
- ・ 日本語が分からない外国人にとっては、防災の観点から、避難所に辿り着くまでの案内は必要

## かわさきパラムーブメントにおけるレガシーについて

### レガシー④誰もがスポーツ・運動に親しんでいるまち

- ・ すべての人にとって、身近な場所でスポーツをするための環境が整っている。
- ・ すべての人にとって、公平にスポーツを観戦できる環境が整っている。
- ・ すべての人が、日常的にスポーツ・運動に親しみ、楽しみ、体力の維持向上や健やかな心身を育てている。

障害者スポーツは、競技レベルの支援が中心で日常の障害者の運動スポーツは後発であり、また、後天性の障害者などは引きこもりがちである。いかにして知ってもらい体験してもらい機会を創出し伝えることができるか、といった観点から検討  
※現在は、各スポーツセンターにおいて障害者スポーツデーなどを実施。

<検討会での意見>

- ・ 肢体障害児（装具や補助器具の使用により多様に対応可能）や知的・情緒障害児（全員一緒に一つのことに取り組むことが難しい、単純なルールのものが人気）といった、様々な障害特性に応じることができる体験メニューの実施やその情報発信

### レガシー⑤誰もが文化芸術に親しんでいるまち

- ・ すべての人が、文化芸術活動に携わることができる環境が整っている。
- ・ すべての人が、文化芸術に親しみ、楽しめる環境が整っている。

文化芸術に親しむ場合、特に視覚や聴覚に障害のある方にとってバリアになる場合が多いが、既に本市においても視覚障害者情報文化センターにおける月 1 回の音声サポート付きの映画上映や、青少年科学館のプラネタリウムで字幕の出る眼鏡をかけて一緒に楽しむことを実験的に行ったりしている。

一方で、障害者がそもそもどのような文化芸術があるのか自体を知らないことが多いと聞くことから、まずは知ってもらうきっかけについて検討

<検討会での意見>

- ・ 例えば、特定の日（例：学校が休みとなる市制記念日など）に市の施設を「無料にする」など  
→フランスでは、文化芸術の裾野を広げるために、美術館等が無料となる「文化の日」がある
- ・ GW 開催の「アルテリカ芸術祭」の中で無料体験できるイベントの創設
- ・ 障害特性に関わらず多くの人と一緒に楽しめる食文化に取り組む

### レガシー⑥多様な主体が地域づくりに貢献しているまち

- ・ すべての人が、自らが住まうまちの将来の姿を共有して、自らの能力を活かして活動を実践し、コミュニティの一員となっている。
- ・ 自らが住まうまちの地縁型の活動 やテーマ型の活動 にかかわらず、参加できる環境が整っている。

行政、住民、企業等の各主体におけるパラムーブメントについての共通理解と、ボランティア文化や地域活動の広がりなどをどのように図るか。障害者を含む多くの人材が実際に主体的に活動するために、どのような仕組み（システム）が必要でそれをどのように作るか等について検討

<検討会での意見>

- ・ ボランティア活動をした人を地域包括ケアの地区カルテに掲載することで、オリパラでの取組を地域づくりにつなげていく
- ・ ボランティア情報の一元化：英国事前キャンプでのボランティアをはじめ、市内のスポーツや文化をはじめ様々な分野のボランティアに参加された方などについて、ボランティア情報の一元化を図る。

### レガシー⑦誰もが職業等を通じて社会参加できる環境

- ・ すべての人が、社会参加しようとする意欲を持っている。
- ・ すべての人が、お互いの個性を理解し、一緒になって仕事や、趣味、学習活動等を行っている。

パラムーブメントでめざすものは、法定雇用率の達成ではなく、誰もが最大限に活躍できる環境づくりであり、本市の障害者雇用や民間の障害者雇用を促進する機能等を一元化するしくみについて検討

<検討会での意見>

- ・ 既存業務からの切り出しを行い、障害者がどの部署に行っても活躍できるような環境づくり
- ・ 健常職員が障害を抱えることになった場合の全面的なサポート
- ・ 市内中小企業における障害者雇用の促進に向けて、その指針・目標となるよう上記取組の発信